

おくすり Q&A

「いつもの薬がない」と言われるのはなぜですか？

最近、薬局で「同じお薬をご用意できません」と言われ、不安に感じた方もいらっしゃるかもしれません。現在、全国的に医薬品の供給が不安定になるケースが続いています。これは薬局の準備不足ではなく、医薬品メーカー側の**出荷調整**や**出荷停止**の影響によるものです。なお、これは品質に問題があるという意味ではありません。

Q. 出荷調整・出荷停止とは何ですか？

A. 出荷調整とはメーカーからの**出荷量が制限される状態**、出荷停止とは**一時的に出荷そのものが止まる状態**を指します。この場合、薬局が通常どおり発注しても入荷できないことがあります。特定のメーカーだけでなく、同じ成分の薬が複数社で同時に不足することもあります。

Q. なぜ起きているのですか？

A. 背景には、**原材料不足、製造設備のトラブル、品質基準への対応、需要の急な増加、物流の遅れ**など、複数の要因があります。医薬品は安全性を最優先に製造されるため、一般の商品と違い、短期間で増産することが難しく、供給の回復には時間を要します。さらに、ある薬が不足すると代替として使われる近い働きの薬に処方集中し、そちらも一時的に入手しにくくなる場合があります。

■薬局での対応

こうした状況でも、薬局では治療が途切れないよう対応を行っています。同じ成分の別メーカー品への変更確認、流通在庫の調査、他薬局との連携、医師への処方変更相談、効果や安全性が確認された代替薬の検討などを行い、医学的・薬学的に妥当と判断された方法で調整しています。



■最後に

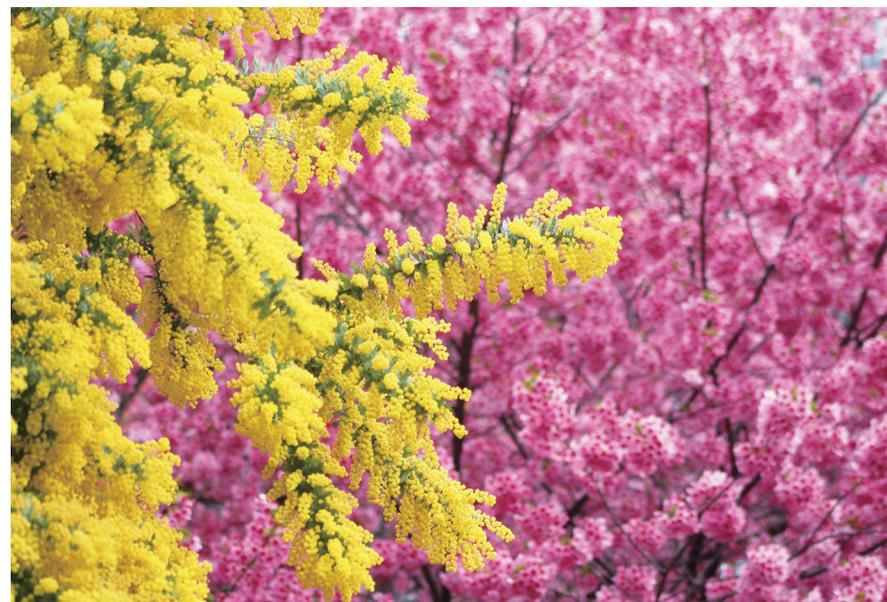
供給不安はすぐに解消できない面もありますが、薬局は医療機関や卸業者と情報を共有しながら対応を続けています。ご不明な点やご心配な点がございましたら、遠慮なく薬剤師へご相談ください。



執筆薬剤師 依田 直樹

わたしの健康とくすり

第362号



今月の内容

- ・疾患シリーズ アトピー性皮膚炎とは(その3) ~生物学的製剤って知ってる?~
- ・ちょっとお耳を…… 経口避妊薬(アフターピル)について
- ・おくすり Q & A 「いつもの薬がない」と言われるのはなぜですか？

2026年3月発行

発行者 八王子薬剤センター 橘 隆二
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

疾患シリーズ アトピー性皮膚炎とは(その3) ～生物学的製剤って知ってる?～

■生物学的製剤について

アトピー性皮膚炎の基本治療は、ステロイド外用薬と日々のスキンケアを継続することです。多くの方はこれらの治療で症状の改善が期待できますが、中には十分な効果が得られず、強いかゆみや皮疹を繰り返してしまう方もいます。そうした患者さんの新たな治療選択肢として登場したのが**生物学的製剤**です。

■生物学的製剤とはどのようなお薬?

生物学的製剤は、アトピー性皮膚炎の炎症に深く関与している特定の物質(サイトカイン)に直接作用する注射薬です。従来の治療が「広く炎症を抑える」治療であったのに対し、生物学的製剤は**炎症の原因をピンポイントで抑える**という特徴があります。そのため、症状が安定し、皮疹やかゆみがほとんど目立たなくなる、**寛解に近い状態**を目指すことが可能になってきました。

■代表的な生物学的製剤

現在、アトピー性皮膚炎に使用されている生物学的製剤の代表例として、デュピクセント®皮下注(一般名:デュピルマブ)があります。このお薬は、炎症に関わるインターロイキンという物質の働きを抑えることで、かゆみや湿疹を改善します。2018年に使用が認められて以降、多くの患者さんで使用されていて、アトピー性皮膚炎治療の大きな転換点となりました。さらに近年では、ミチーガ®(ネモリズマブ)、アドトラザーザ®(トラロキヌマブ)、イブグリース®(レプリキズマブ)など、作用するインターロイキンの種類が異なる生物学的製剤も使用できるようになっています。同じ注射薬でも、効き方や得意とする症状が異なるため、患者さんの症状や生活スタイルに応じて使い分けられます。

■治療の進め方と注意点

生物学的製剤は、通常、数週間から数か月ごとに皮下注射で投与されます。治療を継続することで症状が落ち着き、**寛解に近い状態**を維持できる方もいます。一方で、体質や病状によって効果の現れ方には個人差があるため、定期的な診察が重要です。また、生物学的製剤は保険診療で使用できますが、比較的高価な治療であるため、治療効果と費用、通院頻度などを踏まえ、医師と十分に相談したうえで治療を選択することが大切です。



生物学的製剤の登場により、アトピー性皮膚炎の治療は「症状を我慢する治療」から「症状のない状態を目指す治療」へと進化してきました。治療に不安や疑問がある場合は、遠慮せず医師や薬剤師に相談し、ご自身に合った治療と一緒に考えていきましょう。

東京薬科大学 薬学部 総合学修・教育センター 杉山 健太郎

ちょっとお耳を……

経口避妊薬(アフターピル)について

2026年2月2日に、日本で初めてとなる OTC 緊急避妊薬「ノルレボ®」(要指導医薬品)が、第一三共ヘルスケア株式会社から発売されました。これにより、これまで病院やオンライン診療を通じてしか入手できなかった緊急避妊薬を、一定の条件を満たした**薬局**や**ドラッグストア**でも購入できるようになりました。今回は経口避妊薬の要点や注意点について簡潔に説明したいと思います。

◆ポイント

- ・**処方箋不要**で購入可(薬局カウンター販売)
- ・購入者本人が店頭に行き、薬剤師の説明を受けたうえで**その場で服用**する必要あり(立ち会い条件)
- ・年齢制限なし、親の同意不要(誰でも購入可)
- ・1錠 7000～8000円(薬局価格)
- ・服用目安は性交後できるだけ早く、通常**72時間以内**が**効果的とされています**。



◆注意点

- ・薬局での緊急避妊薬は**オンライン購入や代理購入は不可**(本人が来局)
- ・緊急避妊薬は「常用の避妊法」ではなく、あくまで**避妊に失敗した際の緊急措置**です。
- ・定期的な避妊には**低用量ピル**や他の方法を医師と相談することが推奨されます。

◆経口避妊薬(アフターピル)と低用量ピルの違い

経口避妊薬は避妊できなかった「あと」に使います。性交後に1回だけ、できる限り早く飲みます。いわば妊娠を防ぐための「緊急ブレーキ」になります。なので毎回使うものではありません。服用すると生理が乱れやすくなるがあります。低用量ピルは妊娠を防ぐために「普段から」飲むものになります。毎日同じ時間に飲んで長期間使用するものになります。生理痛が軽くなったり、生理日をコントロールしやすくなるといった利点もあります。

項目	アフターピル	低用量ピル
使うタイミング	事後	事前・日常
飲む回数	1回 	毎日 
避妊の考え方	緊急対応	予防
薬局で買える?	○	×
常用	×	○

執筆薬剤師 鈴木 瑞章